

外国例 10 例, 本邦例 14 例, 計 24 症例でありまれな疾患であるので, 若干の文献的考察を加えて報告した。

62. Takaoka Respirator による Penthrane 吸入麻酔の経験

大川昭二, 植松貞夫,
深町信一 (深町病院)

私どもは昭和 40 年 1 月より, ブラジルの二世麻酔医高岡健太郎博士によって考案された, 高岡レスピレーターおよび気化器を使用して, ペントレン吸入麻酔を施行している。

今回は, 高岡レスピレーターおよび気化器の構造機能, 使用法を簡単に述べ, 私どもが経験した 164 例 (昭和 40 年 1 月~昭和 41 年 10 月) の当麻酔の臨床成績を検討した結果, 2~3 時間の麻酔では, それ程とりあげられる欠点がないと思われるが, 本レスピレーターの特長である Low flow constant, 長時間の本レスピレーターによる人工吸呼法, 気化器の改良, 調節性の問題その他 2~3 の点に再検討の余地あるものと考えられる。しかし何れにせよ, 5 万円という安い価格で成人の麻酔, 蘇生器, または新生児仮死蘇生器と多方面に利用できることは, 開業医にとってきわめて有用なものと考えられる。

63. コルドトミーの 1 例

橋詰定明, 藤代国夫, 谷上好文
(国保成東病院外科)
今関治邦 (同 産婦人科)
柏原英彦 (同 インターン)

子宮癌 (子宮頸部癌第 III 期) の 69 才の女性にコルドトミーを施行し, 甚だ良好な除痛効果を得た。すなわち患者は上記診断で千葉大学婦人科に入院, 手術はせず放射線治療を行なった。局所のラヂウム照射 10 回を 240 時間で完了, 深部照射 20 回を続けて行なう予定であったが, 全身衰弱いちじるしきため 2 回で中止した。当時患部および左腰部から大腿部にかけて疼痛が強かった。退院後種々薬物療法を行っていたが, 日に数回の Narcotica の使用でも我慢ができなくなり当院に入院した。そこで胸椎第 2, 第 3 の椎弓を開き, 右側脊髄視床索にコルドトミーすなわち anterolateral Cordotomy を施行したところ, 術前の疼痛は麻酔覚醒と同時に消失し, Narcotica の使用も術後 4 日目まででまったく必要としなくなった。疼痛のため歩行も満足でなかった患者は, 別人のごとく元気になり, 術後 3 週にして笑って歩いて退院した。比較的幸運な例といえるかも知れないが, コルドトミーは適応さえ十分に選ぶならば, 末期癌や再発

癌の激痛に対して著効のあることを認めた。

64. 癌末期疼痛の処置

矢沢知海, 黒須吉夫, 明石勝禎,
田代 稔 (東邦大麻酔学教室)

最近 1 年間に行なった疼痛管理の実際についてまだ症例も少ないが報告する。

癌末期疼痛 (19 例) に対しては, 始め持続硬膜外麻酔を行ない, ある程度満足すべき効果をえた。しかし全身状態の障害されたもの, およびさらに高度の疼痛には, クモ膜下腔内アルコールを注入 (9 例) を行ない完全に疼痛を除去している。ただ下腹部, 骨盤部の疼痛では, 失禁および下肢の脱力感, 運動麻痺などの副作用が出る程度まで確実にブロック行なわねば除痛効果は期待できない。さらに諸種愁訴に対しては, Chlorpromazine 系薬剤の投与が効を奏している。なほ, クモ膜下腔内アルコール注入で除痛に成功後 3 週間で死亡した剖見では, 注入部位の腰髄では, ブロック側の後索に, 胸髄ではブロック側の後索と, 前脊髄小脳路, また反対側の腹側脊髄視床路に限局性の海綿様変性が認められ, これらは深部知覚麻痺, 痛覚, および触覚の消失などの臨床所見と一致していた。

65. 沼津市立病院外科における最近 5 年間の症例について

武藤 滋, 武内節夫, 横山健郎
(沼津市立病院外科)

昭和 36 年 10 月 1 日より昭和 41 年 9 月 30 日までの 5 年間に取扱った症例, とくに急性腹部症の手術例について報告する。

外来患者は年間約 2400 名, 入院患者は約 500 名である。

中山式胃切除術施行例は 172 例で, 縫合不全, 手術死亡は 1 例もない。

急性腹膜炎は 70 例で, 死亡率は 8.6%

腸閉塞は 48 例で, 死亡率は 4.2%

急性胆嚢炎は 11 例で死亡例なし。

出血胃は 15 例で, 死亡率は 0.7%。

66. 肝障害を有する患者の手術経験

○宮嶋哲也, 大倉正二郎, 和田房治
(蒲田総合病院)

救急手術例は高度肝障害を伴っても, 手術を強行しなければならぬ場合が多く, われわれは最近 1 年間に経験した救急手術例の中, Ebeling らの予後不良とする肝